

糸電話

教育相談課だより
平成31年1月25日
第13号



子供たちの成長を促すために ～若手教員〔初任者〕研修講座(小学校)～

若手教員〔初任者〕研修講座(小学校)の第15日は、第2日(4月)に研修した『生徒指導の意義と進め方』『教育相談の意義と進め方』を踏まえ、この1年の生徒指導、教育相談の実践報告書を持ち寄り、協議しました。そこには、次のような例が記載されていました。



「入れて!…って言ったのに。
話をよく聴いた。相手は遊びに夢中になって聞こえていなかったの、仲直りを互いにした。

図工の時間だ!避難訓練なんていやだ!
特別支援コーディネーターの先生に相談した。予定の変更は前もって丁寧に伝える配慮をする。

飾り付きの文房具を隣の席の子にねだってもらったと言うのですが…
生徒指導主事に報告し、一緒に対応した。持ち物の約束を学年でも確認した。

先生見て!頑張って縄跳びが上手に跳べるようになったよ!
ずっと頑張っていたので一緒に喜び、たくさん褒めてあげた。保護者にもお伝えし、学級でも紹介した。

学校では、一人一人の子供への対応、子供たち同士の人間関係への対応、保護者への対応等、様々な対応すべき場面があります。さらに、丁寧な対応、迅速な対応、包み込むように温かな対応、毅然とした対応と、出来事によって求められる対応も変わります。4月から教壇に立ち、学習指導にも学級経営にも力を入れたい初任者の先生方は、日々起こる出来事への対応に戸惑う中、周りの先生のはつらつとした姿を見て「自分は本当に教員としてふさわしいのかな。」と思い悩む日々もあったようです。

周りの先生を見て…そこでハッと気付いたのですね。子供たちの成長には、たくさんの人の関わりが必須である、ということに。「こんなことを相談していいのかな。」「主任、忙しそうだな。」などとためらわなくてよいのです。周りの先生に相談しながら、子供たちのよりよい成長を促すことは大切なことです。これに気付いた初任者の先生方の報告書を読むと、「相談する力」が付いてきたことが伝わってきました。「相談する力」は、「連携、協働する力」へと変わっていくことでしょう。

子供たちの「よさを見付ける」

実践報告書には、子供たちのよさへの対応もたくさん記述されていました。褒め、認めることは、自分の行いがよいことであるという気付きを子供たちに与えます。また、「頑張ってみた」「やってみた」ことが、褒められ、認められることによって、その子だけではなく、周りの子供たちにも「どのような行いがよいのか」がわかります。

やってよかった!
あと進んでくれてありがとう!

大きく口をあげて歌っているね!

上履きがきちんとそろっていて素晴らしいね!
みんな、学習の始まりの挨拶が元気にできたね!

私も元気に挨拶しよう!

4月当初は子供たちにどのように言葉をかけたり、全体に指導したりすればよいか悩むことが多かったが、学年主任や生徒指導主事、管理職に相談し、助言をもらいながら子供たちと関わってきた。周りの先生方に相談することで、協力して生徒指導を進めることができた。また、意識的によいところを見付けたり、頑張っている子達にも目を向けたりするように心がけ、学級全体の雰囲気が良くなるように努めた。

褒め、認めると言っても、みんなの前で紹介し、褒めてあげたり、また個別に呼んでそっと褒めてみたりと、初任者の先生は、その子に応じて効果的な褒め方、認め方があることに気付いたようです。こうした教育活動を経て子供たちの自己肯定感や自己有用感が高まり、自分を大事にしようと思ったり、周りの人たちへの温かな心遣いができるようになっていったりしていくのです。

【実践報告書より】